



2021年3月31日

各 位

会 社 名 阪急阪神ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 杉山 健博
 (コード番号 9042 東証第一部)
 問合せ先 グループ経営企画室 経理部長 上戸 健司
 (TEL. 06-6373-5013)

連結業績予想の修正及び個別決算における特別損失の計上に関するお知らせ

2021年2月5日に公表しました2021年3月期通期(2020年4月1日～2021年3月31日)の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、個別決算における特別損失の計上につきましても、お知らせいたします。

記

1. 通期業績予想の修正について

2021年3月期通期連結業績予想数値の修正(2020年4月1日～2021年3月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2021年2月5日)	百万円 575,000	百万円 △9,000	百万円 △21,000	百万円 △36,000	円 銭 △148.82
今回修正予想(B)	565,000	△5,000	△15,000	△40,000	△165.36
増減額(B-A)	△10,000	4,000	6,000	△4,000	—
増減率(%)	△1.7	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	762,650	95,170	88,795	54,859	225.69

修正の理由

(営業収益・営業利益・経常利益)

本年1月に再発令された緊急事態宣言の影響を受け、都市交通事業において、阪急線・阪神線の運輸収入等が想定を下回る見込みであり、また不動産事業において宅地戸建・マンションの販売スケジュールを見直した事等により、営業収益は前回発表予想を下回る見込みです。

一方で、国際輸送事業が堅調に推移していることに加え、各コア事業においてコスト削減に取り組んだ結果、営業利益は前回発表予想を上回り、また固定資産除却損の一部を営業外費用から特別損失に振り替えたこともあり、経常利益は前回発表予想を上回る見込みです。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

当社の連結子会社である株式会社阪急阪神ホテルズ(以下「阪急阪神ホテルズ」)は、近年、特に近畿圏においてホテル間の競争が激化するなど厳しい事業環境にありました。こうした状況の中で、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けることとなり、阪急阪神ホテルズでは、二度にわたる緊急事態宣言中に一部のホテルを休業したほか、期を通じて客室稼働率や一般宴会の利用が大幅に低下し、またレストランの利用等も低調に推移したこと等から、2021年3月期において大幅な赤字を計上する見通しとなりました。さらに、今後につきましても、インバウンドの回復には相応の期間を要すること等から、厳しい事業環境が続くものとみております。

こうしたことから、業績をできる限り早期に改善し、ホテル事業がコアとして自立し続けていくために、今般、「事業面」・「人事面」・「財務面」から構造改革を推進(※)することとし、これに伴い、2021年3月期の連結決算において、構造改革損失(特別損失)を約180億円計上することといたしました。

なお、前回発表予想では、ホテル事業での資産の毀損リスクに備え、その影響を一定程度織り込んでいましたが、上記の構造改革損失において、将来年度に発生が見込まれる費用を可能な限り当期に計上することとしましたので、親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表予想を下回る見込みとなりました。

※ 阪急阪神ホテルズにおける構造改革の内容につきましては、添付資料「(株)阪急阪神ホテルズにおける構造改革について」をご参照ください。

〔ご参考：セグメント別 営業収益・営業利益の見通し（2021年3月期）〕

（単位：億円）

上段：営業収益 下段：営業利益	今回修正予想 (2021年3月31日)	前回発表予想 (2021年2月5日)	前々回発表予想 (2020年11月6日)	(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)
合計	5,650 △50	5,750 △90	5,750 △120	7,627 952
[主な内訳]				
都市交通	1,577 △60		1,619 △26	2,272 401
不動産	1,910 277		1,971 276	2,360 415
エンタテインメント	415 △35		395 △64	740 117
情報・通信	598 53		598 55	586 56
旅行	88 △100		114 △126	338 2
国際輸送	840 20		762 1	762 2
ホテル	187 △184		216 △211	603 △31

（注）前回発表予想（2021年2月5日）では、セグメント別の予想数値を公表しておりません。

2. 個別決算における特別損失の計上について

当社は、阪急阪神ホテルズの株式会社阪急阪神フィナンシャルサポート（グループ金融機能を担う当社の連結子会社）からの借入に対し、必要に応じて債務保証を行うこととしておりますが、阪急阪神ホテルズの2021年3月末の財政状態の見通しを踏まえ、2021年3月期の個別決算において、同社に対する債務保証損失引当金繰入額（特別損失）を約260億円計上する見込みとなりました。

なお、当社が計上する当該債務保証損失引当金繰入額は、連結決算において消去されるため、連結損益への影響はありません。

（注）この資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上

(株)阪急阪神ホテルズにおける 構造改革について

2021年3月31日

阪急阪神ホールディングス株式会社

9042 <https://www.hankyu-hanshin.co.jp/>

阪急阪神ホールディングス株式会社
Hankyu Hanshin Holdings, Inc.

阪急阪神ホテルズの現状と対処すべき課題

- 阪急阪神ホテルズは、近年、特に近畿圏においてホテル間の競争が激化するなど厳しい事業環境にあった。
- こうした状況の中で、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けることとなり、阪急阪神ホテルズでは、二度にわたる緊急事態宣言中に一部のホテルを休業したほか、期を通じて客室稼働率や一般宴会の利用が大幅に低下し、またレストランの利用等も低調に推移したこと等から、2021年3月期において大幅な赤字を計上する見通しとなった。
- さらに、今後についても、インバウンドの回復には相応の期間を要すること等から、厳しい事業環境が続くものとみている。
- こうしたことから、業績をできる限り早期に改善し、ホテル事業がコアとして自立し続けていくために、今般、「事業面」・「人事面」・「財務面」から構造改革を推進する。

【阪急阪神ホテルズの業績】 (単位：億円)

	2018 実績	2019 実績	2020 予想
営業収益	483	473	122
営業利益	10	▲34	▲187
当期純利益	4	▲36	▲300

阪急阪神ホテルズの立て直しに向けて

宿泊・料飲ともに、マーケットにおける需給バランスの変化(落ち込み)にも相応に耐え得る事業構造に変革すべく、コロナ禍からの売上回復や収支改善に向けた取組に加え、**不採算ホテルからの撤退と固定費の削減**等を推し進めることにより、(ホテルの撤退に伴い発生する一時的な費用を除き、)**2024年度に実質的な営業黒字化を達成**していく。

阪急阪神ホテルズの構造改革の概要

① 事業構造改革

- ・今後は、収益性の見込める「宿泊主体型ホテル」と一部の厳選した「総合型ホテル」に経営資源を集中することとし、**不採算ホテルや収益性の悪化が懸念されるホテルは営業を終了**する。

2021年度末：第一ホテルアネックス、吉祥寺第一ホテル

なお、下記の2ホテルについては、以下の対応を予定

- ・**レム鹿児島**：2021年度末で直営ホテルから物件オーナーが運営するチェーンホテルに変更
- ・**梅田OSホテル**：阪急阪神ホテルズが運営受託している同ホテルは、遅くとも2021年度末までに営業を終了

2022年度末：第一ホテル東京シーフォート

- ・**大阪新阪急ホテル**については、老朽化が著しく進展していることに加えて、隣地に同規模のホテル阪急レスパイア大阪が開業したこと等から、大阪新阪急ホテルに付属している施設の先行移転の見通しや進捗等をみながら、**2024年度末頃に営業を終了**する。
- ・**千里阪急ホテル**については、同じく建物の老朽化が進んでいることから、(隣の街区の千里中央駅前地区において検討されている新たな再整備計画の進捗等もみながら、)**2025年度末頃に営業を終了**する。

② 人事構造改革

- ・上記の事業構造改革(拠点の見直し)に伴う定員の減に加えて、各ホテル・部門の業務の棚卸しを通じ、さらなる効率化を図り、それにより体制のスリム化を実現する。在籍人数は、退職者不補充[自然減]を通じて定員に収斂させていく。

③ 財務構造改革

- ・コロナ禍による収益性の低下に伴い、減損を実施する。

阪急阪神ホールディングス株式会社
Hankyu Hanshin Holdings, Inc.

2

構造改革の影響及び成果

■ 構造改革に伴う2020年度決算への影響

- ・事業・財務構造改革(上記①③)の推進に伴い、2020年度決算において、構造改革損失(減損損失及び拠点の見直しによって発生する費用)約180億円を特別損失として計上する。

■ 構造改革により得られる成果

項目	具体的内容
事業構造改革 財務構造改革	・不採算ホテルからの撤退により同ホテルの営業赤字が消失 ・減損の実施により減価償却費が減少
人事構造改革	・在籍人数の減：約▲800人 (2021年度期首 約2,300人 →2025年度期首 約1,500人)



これらの収支改善への取組を通じて、売上がコロナ前の90%水準に留まった場合でも営業黒字を計上できるよう、事業構造の強靭化を図る。
(具体的には、2024年度に実質的な※営業黒字化を達成していく。)

※ 大阪新阪急ホテル及び千里阪急ホテルは、営業終了に伴い償却期間が短くなるため、会計処理上、減価償却費が増加するが、実質ベースではその増分を除いている。

阪急阪神ホールディングス株式会社
Hankyu Hanshin Holdings, Inc.

3

構造改革を通じて目指す方向性

① 事業競争力の強化

- ・ 経営資源の集中・特化による事業競争力の強化
 - ✓ 「宿泊主体型ホテル」と「高品質・伝統を強みとするハイグレードの総合型ホテル」に経営資源を集中し、サービスレベルのさらなる向上やブランド力の強化により、阪急阪神ホテルズの各ブランドに相応しいサービスを提供していく。
 - ・ 総合型ホテルについては、既存の4ホテル※に絞り込み、各ホテルのブランド力にさらに磨きをかけていく。
※ホテル阪急インターナショナル・第一ホテル東京・ホテル阪神大阪・宝塚ホテル
 - ・ 宿泊主体型ホテルにおいては、顧客の囲い込み・プロモーション・レベニューマネジメント等を強化するとともに、これまでの洗練されたデザインの継続に加えて、先進技術を活用した省力化等を進めることで、革新性の高いホテルサービスの導入を進めていく。
- ⇒ こうしたことを通じて、ホテル事業全体の競争力を高め、宿泊主体型ホテルを中心に利益を創出できる事業構造への変革を図っていく。

② 各ホテルの事業性の向上

- ・ 既存ホテルにおけるコスト構造の見直し
- ・ 既存ホテルにおける事業運営面の効率性の向上

株式会社阪急阪神ホテルズの概要

■ 株式会社阪急阪神ホテルズの概要（2021年3月31日現在）

名称	株式会社阪急阪神ホテルズ		
所在地	大阪市北区芝田1丁目1番35号		
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 藤本 和秀 ※ 2021年4月1日付で代表取締役社長に山中直義（現 取締役専務執行役員）が就任予定		
事業内容	ホテル業 〔 直営ホテル 21ホテル※（6,659室） ※ 首都圏9ホテル、近畿圏11ホテル、その他1ホテル チェーンホテル 27ホテル（5,787室） 計 48ホテル（12,446室） 〕		
資本金	100,000千円		

■ 営業を終了するホテルの概要

名称	第一ホテルアネックス	吉祥寺第一ホテル	梅田OSホテル※
所在地	東京都千代田区 内幸町1丁目5番2号	東京都武蔵野市 吉祥寺本町2丁目4番14号	大阪市北区 曽根崎2丁目11番5号
開業日	1989年7月1日	1987年5月11日	1974年10月17日
主な設備	客室数 180室 料飲施設 1店 宴会場 3室	客室数 81室 料飲施設 5店 宴会場 6室	客室数 283室
営業終了時期 (予定)	2021年度末	2021年度末	遅くとも2021年度末

株式会社阪急阪神ホテルズの概要

■ 営業を終了するホテルの概要

名称	第一ホテル東京シーフォート	大阪新阪急ホテル	千里阪急ホテル
所在地	東京都品川区 東品川2丁目3番15号	大阪市北区 芝田1丁目1番35号	大阪府豊中市 新千里東町2丁目1番
開業日	1992年7月20日	1964年8月8日	1970年3月1日
主な設備	客室数 132室 料飲施設 3店 宴会場 6室	客室数 961室 料飲施設 11店 宴会場 12室	客室数 203室 料飲施設 5店 宴会場 15室
営業終了時期 (予定)	2022年度末	2024年度末頃	2025年度末頃

※ 以下のホテルは、2021年度末に直営ホテルから物件オーナーが運営するチェーンホテルへの変更を予定

名称	レム鹿児島
所在地	鹿児島県鹿児島市 東千石町1番32号
開業日	2011年10月15日
主な設備	客室数 251室 料飲施設 2店